

かみ碎いた食物は、だら液と混ざり、舌でのどを奥へ送られ、筋肉の働きで食道を通って胃に入る。食道と胃の境目が閉じて、食物は逆流しない仕組みになっています。

仕事を思い浮かべたり、食物を口に入れると、成人は一日に一と余りのだ液が、胃液は食事ごとに数百ml。1日に計約3l出ます。空腹時の成人の胃は10~50mlで、最大容量は約1lですが、胃拡張は約2lにふれます。

飲み込んだ食物は胃袋に達し、だ液(中性pH6.4~7)中のアミラーゼによるデンプンの消化(分解)は、胃液が食物中しみ込むまでの15~30分を要します。食物が入つてきます。食物が入つて胃がふくれると、その刺激で胃壁から胃液がさらに出で、胃の中が強い酸

性(pH2)になると、胃液は出なくなります。胃液はペプシンなどの酵素や胃酸(約0.5%の塩酸)、粘液のムチン(タンパク質と糖の結合物で、だ液や卵白にも存在)

性(pH2)になると、胃液は出なくなります。胃壁はネバネバの粘液ムチンを出し、表面をおおつて胃酸から守り、ペプシンによる胃壁の自己消化を防ぎます。が、ストレスによる不安感や緊張時には、胃壁の血管が収縮し、ムチンの出が少なくなり、胃壁の自己消化

時間では、半熟卵は1時間半、卵焼き2個・百gのすき焼き牛肉は約3時間と、普通の食物は2~3時間です。百gの焼きうなぎやタイは3時間15分、百gのビフテキは4時間15分、50gのバターは12時間と、長く胃に留まります。

1. 急性胃炎リストレスなどで急に発症し、原因を取り除くと治ります。

2. 慢性胃炎リ老化現象の一つで、食道と胃の働きが鈍くなつて起つる。

◆胃・食道逆流型リ胸や

心とからだの栄養

能岡 浄 [20]

胃炎は大食い飲み過ぎの

ストレスから胃潰瘍にも

による炎症から「胃潰瘍(いかりよう)」が起きやすくなります。

胃内では主に、食物中のタンパク質が部分的に消化・分解され、吸収されますが、胃壁をも(自己)消化するため、胃壁は消化作用の無いペプシノーゲンを出し、これが胃袋の中の胃酸に出合うとペプ

による炎症から「胃潰瘍(いかりよう)」が起きやすくなります。タンパク質がある程度消化されて粥(かゆ)状になると時々、胃の出口が開き、少しずつ十二指腸へ送り出されます。

◆胃の運動不全型リ食べ過ぎた時は、胃から食道へ胃酸が逆流し、『げっぷ』や『胸やけ』など、胃内に停滞する時は、温湿度の影響で、胃に

『不思議の縁リ仏様の力』により、人間は生きる前に『仏様がつくられた私の命』と解釈で、『仏様がつくれる』といふことがあります。『仏様から頂いた命を任と義務』があり、同様に『仏様から頂いた命を持つ人々のために、私自身を立てるように心が立てる』べきです。皆様もどうぞ自愛ください。(大阪府立看護大学医療期大学部・助教授)

無いが、痛みに対する敏感なのが原因です。胃炎を軽くするには、胃酸が流れやすい『大食い・飲み過ぎ、脂っこいもの、味付けを起しやむにつき・吐き気などの症状で、食物が胃に長く停滞するのが原因です。胃のもたれ・痛み』などの症状が出ます。が、胃のもたれ・痛みは、胃の中が強い酸無いが、痛みに対する敏感なのが原因です。胃炎を軽くするには、胃酸が流れやすい『大食い・飲み過ぎ、脂っこいもの、味付けを起しやむにつき・吐き気などの症状で、食物が胃に長く停滞するのが原因です。胃のもたれ・痛みは、胃の中が強い酸